



「Eco列車でいこう！」～第136回～ 三陸海岸、4都市巡り。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！) 

11月22日(日)。岩手県水沢市から国道343号線。山間を縫うように走り、少し開けてくると新しい家や、プレハブの店舗が現れる。その先に、復興が進む「陸前高田」の市街地が広がった。道の駅に併設している「東日本大震災津波伝承館」へ。館内で映像を見た後、300mほど歩くと、防潮堤の先に風光明媚な「広田湾」が一望できる。実におだやかな海だ。右に折れて、さらに300mほど歩くと、「奇跡の一本松」。大津波で壊滅した景勝地「高田松原」で一本だけで残った松である。

次に向かったのは「気仙沼」。無料の三陸自動車道があるので、都市間の移動は容易だ。

中心街には新しい観光船ターミナルが出来ており、その周りに飲食店や土産物店が並ぶ。「スイーツイベント」が開かれており、ゆるキャラ「ホヤぼーや」が登場し、子供たちを喜ばせていた。

再び三陸自動車道を経由して、30分あまりで「南三陸」。「さんさん商店街」には28店が軒を連ね、観光客も多い。「南三陸キラキラ丼」というイベントで、各店趣向を凝らした「いくら丼」を提供していた。その商店街から数分あるくと「南三陸防災庁舎」が残されている。

あの日。津波襲来の直前まで避難を呼びかけ、多くの役場職員が犠牲となった場所だ。静かに残るこの場所では、多くの人が手を合わせていた。

この日の宿泊地「女川」に着いたのが15時。「女川」は「還暦以上は口を出さない」という英断で、復興が早く進んだ街である。トレーラーハウス風の宿泊施設にチェックインし、町を散策する。駅から港に向かって商店街が形成され、石鹸の店や、スペインタイルの店などの、おしゃれな店舗が多い。

バルで地ビールを飲み、女川駅に併設されている温泉で汗を流した。夕食はイタリアンレストランで。「女川産ホタテとエビのアヒージョ」など、新鮮な魚介類を使った料理はおいしく、ワインが進んだ。

翌、23日。太平洋から昇る朝日。こんなにまぶしい光は久しぶりだ。明るい気持ちで、港まで散歩すると「女川交番」が横倒しの状態で「震災遺構」として保存しており、身が引き締まる。

今回、4つの街を訪れたが、どの街も未来に向かって前を向いている「明るい一面」と、あの日を忘れないという「真剣な一面」が同居していた。

漁港近くの店で、生さんま5匹と活ホタテ5個のお買い得セット(1,900円)を買って、石巻経由で帰途に就く。施設も、道路も工事箇所が非常に多い。三陸は復興に向けて、現在進行形だ。

この先、どんな街が形成されていくのだろう。三陸には、毎年訪れたい魅力がある。



奇跡の一本松



ホヤぼーや



女川の街並み